



日本の昔話
イラスト 阪口 笑子

むかしむかし、あしがら山やまにきんたろうという
男おとこの子がおりました。

山やまおくのほらあなで、お母かあさんと二人ふたりぐらし。

「金きん」の字じがついたはらがけをしめ、

いつも大おおきなまさかりをかついでいます。

きんたろうは、あかんぼうのころから

とても力ちからもちでした。

おもしろい石いしうすをひきずって、

はいはいしていたほどです。



すすくそだったきんたろうは、まい日にち、森もりへあそびにいきます。
ともだちは森もりのどうぶつたちです。

きんたろう「よし、みんなあつまれ〜！ すもうをとるぞ。かかっていい！」

きんたろう「とりゃー」「うお〜、よいしょ」

「よっ！ へへへへへへ… もういっちょっ！」

きんたろうは、さるやさか、いのししをつぎからつぎへとなげとばします。

そこへ、のっしのっしと大きおおくまがやってきました。

くま「きんたろうというのはおまえかい？」

いくらおまえがつよくても、わしにはかなわんだらう！」

きんたろう「なんだと！ おいら、まけないぞ。かかっていい！」

ぎょうじのうさぎがこえをかけます。

うさぎ「ハッケヨイ、ノコッタ！」

きんたろう「おりゃーっ！」

くま「ウォー——！」

くまときんたろうがいきおいよくぶつかります。

くまがおせば、きんたろうもおしかえす。

くま「ウォー ウォー——」

さる「きんたろう、がんばれ！」

うさぎ「きんたろう、しっかり〜」

いのしし「まけるな〜」

なかなかしょうぶがつきません。



それでも、ついに

きんたろう「えーいっ！ とりゃーっ」と、きんたろうが、くまをなげとばしました。

(ドッスン)

くま「まいった、まいった。わしのまけだ。」

きんたろう「よし！ これから、

おまえもおいらたちのなかまだ！」



きんたろうは森のどうぶつたちから
いろいろなことをおしえて
もらいました。

きんたろう「よいしょ、よいしょ」
木のぼりがとくいなさるからは、
木のぼりかたを。

きんたろう

「ハッ ハッ ハッ・・・」

足のはやしかには、
山みちのはしりかたを。

そして、谷川たにがわにいるこいには、
上手じょうずなおよぎかたを。



ついには、
たきのぼりも
できるよう
になりました。

きんたろうは力ちからがつよいだけではなく、
やさしいところもありました。

お母かあさんの目めがわるくなったときは、

きんたろう「おっかさん、箱根はこねのほうに、
目めにきくおんせんがあるんだって。

いっしょにいこうよ」

きんたろうは、お母かあさんをせおって

山やまみちをあるきました。

せなかでお母かあさんがかたりかけます。

お母かあさん「おまえちちうえの父上ちちうえは、

さかたという名なの

りっぱなおさむらいだったのですよ」

きんたろう「そうなんだあ・・・」



きんたろうのお父^{ちち}さんはさむらいでしたが、
いくさにやぶれてころされてしまいました。

お母^{かあ}さんは、あかんぼうだったきんたろうをだいて、
山^{やま}おくへにげたのでした。

お母^{かあ}さん「おまえもいつか、
りっぱなおさむらいになっておくれ」

きんたろう「わかった。

おいら、おっかさんのためにがんばるよ」

ある春はるの日ひ。

きんたろうは、いつものように

くまにまたがり、さっそうと山やまみちをいきます。

きんたろう

♪まさかりかついで きんたろう

くまにまたがり おうまのけいこ

ハイシィドウドウドウ ハイドウドウドウ

ハイシィドウドウドウ ハイドウドウドウ





しばらくいくと、大きな谷川の上に出ました。

川がごうごうとおとをたて、水しぶきをあげています。

うさぎ「きんたろう、これではむこうにわたれないよ」

きんたろう「そうだなあ…。よし！おいらにまかせろ！」

そういうと、きんたろうはそばの

大きな木に手をかけ、

きんたろう「うおー」

(ドッシーン)

木はたちまちたおれ、がけとがけをむすぶ
はしになりました。

うさぎ「わーい！ はしができたあー！」

さる「きんたろうは、やっぱりすいーやー!」

よりみつ「なんと力ちからもちの子どもこもじゃ」

きんたろう「えっ?」

そのようすを、りっぱなさむらいが

見みていました。

さむらいの名なは、みなもとのよりみつです。

よりみつ

「おまえは力ちからがつよくて

やさしい子こだ。

わしのけらいにならないか?」

きんたろう

「おいらをさむらいにしてくれるのか?

きつと、おっかさんがよろこぶよ」



きんたろう「おっかさん。

このおさむらいさまが、

おいらをけらいにしてくれるんだって」

お母さん「本当かい!？」

おさむらいさま、どうかこの子を

りっぱなさむらいにしてくださいませ」

お母さんは、なみだをながして

よろこびました。

きんたろうは、

よりみつについて

京のみやこへ行くことになりました。



そして、しゅっぱつの日。

さる「げんきでな！」

くま「きんたろうならだいじょうぶだ」

うさぎ「またあえるよね」

きんたろう「みんなのことはわすれないよ。

おいら、きつと、日本にっぽん一のさむらいになって、

またあしがら山やまにもどってくるからな」

きんたろうは、なんどもなんどもふりかえりながら、
山やまをおりていきました。

きんたろう

「ヤーヤー！トオー！

オリヤーッ！」

みやこへのぼったきんたろうは、

ひとびとをくるしめていた

おにをたいじし、よりみつち

ほかのけらいとともに

大^{だい}かつやくしたそうです。

きんたろう

「オリヤーッ！」



よりみつは、きんたろうにいいました。

よりみつ「こんかいのはたらき、あっぱれであった。

これからは『さかたきんとき』と名なのるがよい」

きんたろう「ははあ」

こうしてきんたろうは、りっぱなさむらいになりました。

そのかつやくぶりは、あしがら山やまのお母かあさんや

どうぶつたちにもつたわり、みんな、

たいそうよろこんだとさ。

お
わ
り